

1. 研究課題名：

イノシシ、ニホンジカ等の適正かつ効率的な捕獲個体の  
処理および完全活用システムの構築



2. 研究代表者氏名及び所属：

長崎県  
平田滋樹

3. 研究実施期間：平成 28～30 年度

4. 研究の趣旨・概要

近年、増えすぎたイノシシやシカによる自然環境や人間生活への被害が深刻化しており、これら動物の適正管理の強化が求められています。しかしながら、捕獲された動物の大部分がゴミとして処分されており、埋設量や焼却量の増加による周辺環境への影響や捕獲者の負担増が懸念されます。

そこで本研究では、捕獲個体を効率よく山から搬出するための保管と回収の仕組みをつくり、集積個体を生物分解や化製処理により保存や輸送しやすい形に変え、肥料や飼料などの原料として資源活用するシステムを構築します。

また、どうしても持ち出せない個体については、埋設時の分解率や土壌成分を調べ、環境負荷の少ない適切な処理基準を確立します。

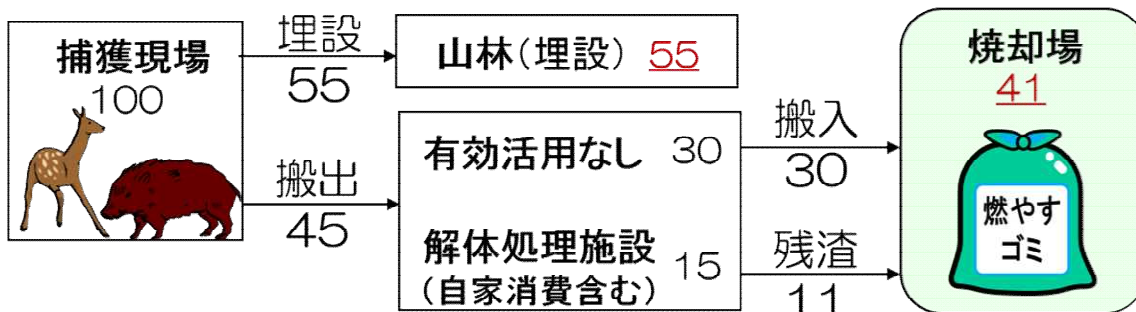
5. 研究項目及び実施体制

①全国のイノシシやシカの捕獲と処理状況を調べ、②一時保管や回収システムを構築しながら、③衛生的に安全な前処理を施し、④生物分解による堆肥化や⑤化製処理を経て減容し、⑥それらの生成物の成分分析などを行いながら、⑦飼料や肥料などとしての効果を検証して再資源化を図ります。また、搬出できない個体については、⑧適正な埋設基準を確立するための分解速度や土壌成分、他の動物の誘引状況などを調査します。

長崎県（農林技術開発センター・総合水産試験場）	・・・主に⑦を担当
国立研究開発法人森林総合研究所	・・・⑧を担当
国立大学法人宇都宮大学	・・・③を担当
三重県	・・・④を担当
公益社団法人長崎県食品衛生協会	・・・⑥を担当
株式会社一成	・・・①を担当
ハラサンギョウ株式会社	・・・②および⑤を担当

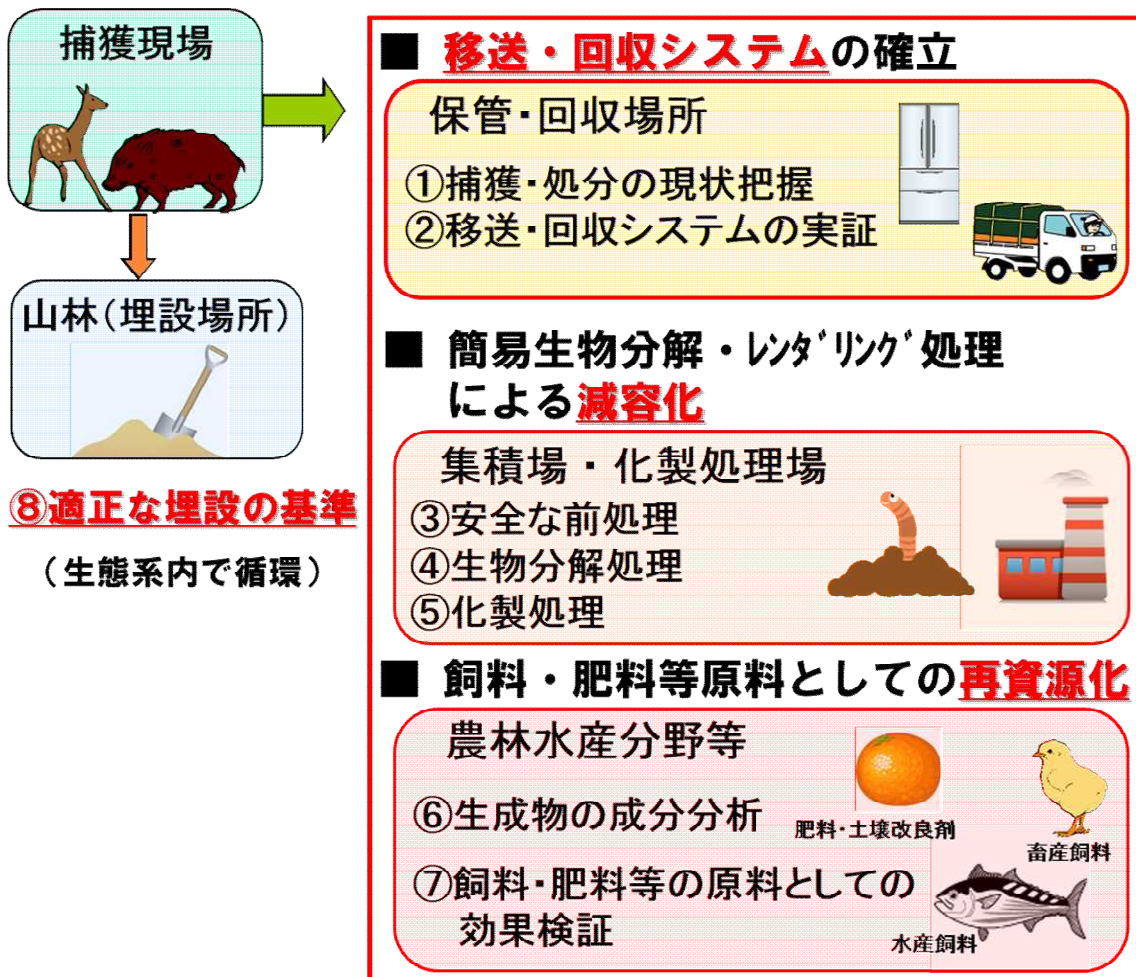
6. 研究のイメージ

○従来の捕獲個体の処分



捕獲したイノシシやシカの大部分が**ゴミ(96%)**として処分

◎本研究による捕獲個体の適正処分



適正管理による自然との共存を目指します！！